矢作川流域圏懇談会通信

H30 流域連携 vol. 1

発　行　日：平成 30 年５月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆流域圏担い手づくり事例集交流会 2018 を開催しました！

　矢作川流域では、水源の森づくりを担う山村で過疎化と少子高齢化が進んでいます。その解決の糸口として、矢作川流域圏懇談会山部会は、2013 年度から４年間かけ、矢作川流域で主として中山間地振興に携わる団体（一部川や海の活動団体を含む）の取材記録をまとめ、流域内の多様な主体によるネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」を４冊発行しました。

　2017 年度には取材先として川や海の環境保全や水辺空間の再生・利活用に携わる団体を増やし、５冊目となる事例集を「流域圏担い手づくり事例集」として発行しました。これらの事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして、この交流会を開催しました。

日　　時：H30 年４月 14 日（土）　13:00～17:00
場　　所：佐久島弁天サロン　寄り合いの間
参加人数：25 名（事務局を含む）

◆交流会の活動報告と活動紹介について

1．活動報告

■矢作川水族館　　新見克也さん

　矢作川水族館は、市民に矢作川の魅力を伝えることを目的として平成19年に発足しました。主な活動は、メンバーで撮影した魚（川）の写真を展示したり、軽トラの荷台に水槽を積んだりして、市民に矢作川の魅力を紹介しています。

　私は矢作川漁業協同組合の組合員でもあるため、漁協の強みと弱みを知っています。漁協の役割には、水産物の供給といった本来的機能と川、魚、漁業に関わる啓発や教育といった多面的機能がありますが、成果（利益）が明確化しにくい多面的機能については、積極的な取り組みができていないのが現状です。そこで、「観光やな」や「子育て支援グループ」など漁協とは異なるネットワークを構築し、矢作川の魅力を発信しています。今後は、漁協の隣に肩をならべる組織を立ち上げ、多面的機能の充実をめざしたいと考えています。

■内藤連三氏　　野田賢司さん（矢作川環境技術研究会）

　内藤連三氏は、戦前に生まれ平成14年に67歳で亡くなりました。生涯矢作川の浄化（汚濁防止対策）に力を注がれた。4大公害が騒がれた時代、この矢作川も例外ではなく、工場排水に加え、窯業や珪砂採掘による汚濁が激しくなりました。そんな中、下流の農業団体、漁業団体、自治体による「矢作川沿岸水質保全対策協議会（以後、矢水協）」が設立され、事務局長の内藤連三氏は開発工事と戦うことになります。化学的根拠を示すなど、たゆみない努力の結果、矢作川流域の開発工事には、矢水協の同意書を許可条件とする「矢作川方式」が制度化されることになりました。まさに、内藤連三氏なくしては、矢作川の浄化は語れません。内藤連三氏の発言には実体験に基づくものであり説得力があります。今一度、流域圏懇談会として、その信念に敬意を表したいものです。

■矢作川をきれいにする会　　鈴木陽子さん（元会長）

　矢作川をきれいにする会は、昭和48年に設立し、以来内藤連三さんとともに、ゴルフ場等の乱開発、工場排水の垂れ流しに対して運動を行ってきました。そこで芽生えた考えは、矢作川の上流と下流は運命共同体ということです。上流が下流を、下流が上流を思いやれば、おのずと行動が変わってくるものです。昭和52年、西尾市は上流の明智町と姉妹提携を結びました。現在では、石川組合長のお力により、上流の平谷、串原、根羽の小学生が潮干狩りを体験することで環境に対する意識を養っています。今後とも流域の関係者の努力で、矢作川がより美しくなることを期待しています。

■東幡豆漁業協同組合　　石川金夫さん（組合長）

私は、漁業の傍ら「矢作川をきれいにする会」の活動を引き継いだ活動を行っています。以前の矢作川はとても汚い川でしたが、現在では厳しい基準のもとできれいになりました。そのため、小さな水質保全委員会を漁協内で創設し、流域内の企業を巡回しています。現在、三河湾では漁業者の高齢化に追い打ちをかけるように、貧酸素水塊等による漁獲量の減少が大きな問題となっています。特に、この5年でアサリがほとんど捕れなくなりました。要因は栄養塩類や土砂の流れ込みの減少等、さまざまだと思われますが、このままでは漁業の担い手が失われてしまします。この危機的な状況を解決するため、山や川の皆さんのお力添えをお願いいたします。

■有限会社オフィス・マッチング・モウル　内藤美和さん(代表取締役)
池田ちかさん(取締役)

私たちは芸術文化を企画する会社で、平成13年に当時の一色町役場（現西尾市）の委託で佐久島にアートプロジェクトを立ち上げました。当時はブログやSNS等のない時代でしたので、どのようにこの島をアートで売っていこうかと悩みました。ところが、時の建設省の幹部の方に「素敵なものを見つけている私を見て！」という時代が間もなく来るぞという助言をいただいたのです。そこで私たちは、ターゲットを都市部の若い女性にしました。当初は周囲から批判も受けましたが、若い女性が集まれば、若い男性も来ますし、若い人が多く集まれば、結局すべての世代が島を訪れると考えました。そして、私たちの予想は見事に当たりました。若い人たちのネットを使った拡散が、多くの若者をこの島に呼び寄せています。

佐久島は観光の島でありながら、地図がなかった。私たちは18年かけて、歴史やアートを結びつけた佐久島体験マップを作成しました。現在、アートピクニックあるいは弘法めぐりを進めており、観光客向けの講座やワークショップも開催しています。

■島を美しくする会　　鈴木喜代司さん（会長）

この事業を始めるきっかけは、平成5年に国が立ち上げたモデル事業にこの島が選定されたことにあります。しかし、当時は、一色はもとより愛知県にもアートという概念はありませんでした。アートを島の老人に説明する。地獄のような3年間でした。そんな中、オフィス・マッチング・モウルの内藤さんに出会いました。最初はアートだけが先行して、島民は置き去りでしたが、次第に島民もアートの必要性を感じ、ゼロから学びたいと動き出しました。今では、我々と行政（振興課）と島民の3者が話し合い、島の活動を決定しています。

この島を、アートの島と定着させるまでには、情報発信の面でも大変苦労しました。今では、SNSによる拡散もさることながら、年間60～80社のテレビ局や出版社が宣伝してくれるようになりました。今後とも、島に訪れる人々が増えるよう努力したいと思います。

～さくしま陽春のエコツアー～

事例集交流会の翌日(15日)、野田賢司さんご指導のもと佐久島の中央(中央の河川流域)～西部(石垣海岸～白浜海岸)を歩きながら水文、水質、生物の項目を簡易的な方法で調査を行いました。水文調査では、「流域ものさし」や「流域ふろしき」といった流域圏懇談会において、共通の認識となったツールを使用して、流水部の水深や流速を計測しました。今回のエコツアーを通して、これまで知らなかった佐久島を学ぶことができました。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 神本、係長　服部
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100　指導員　宇野

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。